

2026年9月期 第3四半期 決算補足説明資料

ティアンドエスグループ株式会社

(東証グロース 4055)

2026.8.13



T&S
Technology & Service

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高・営業利益	p. 9
主要取引先動向	p. 10
エンジニアの状況	p. 11
連結損益計算書	p. 12
連結貸借対照表	p. 13
業績予想進捗率	p. 14
株主還元	p. 16

(今期のテーマ) 成長への旅立ち

1 売上高、利益ともに**過去最高**を達成 (過去同期比)

売上高	: 33億 93百万円	(11.9%増↑	増加額: 359百万円)	(前年同期比)
営業利益	: 6億 34百万円	(18.9%増↑	増加額: 100百万円)	(同)
経常利益	: 6億 37百万円	(19.2%増↑	増加額: 102百万円)	(同)
四半期純利益	: 4億 18百万円	(18.9%増↑	増加額: 66百万円)	(同)

2 半導体が好調、DXは順調、AIソリューションは増収復帰

- ▶ 半導体ソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比24.5%増の1,148百万円と大幅増。半導体市場の復調や強い投資需要を背景に、システム開発案件の受注が増加しました。
- ▶ DXソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比6.7%増の1,906百万円と順調に拡大。新規顧客や既存顧客との取引が拡大し、売上増加に寄与しました。
- ▶ AIソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比4.2%増の338百万円と増収復帰。上期R&Dが先行していたが、計画通りの推移となりました。

3 売上高、各利益とも、対業績予想の進捗率は好調

例年に比較して3Qの落ち込みが少なく、3Qまでの進捗率は売上高75.4%、EBITDA79.6%。

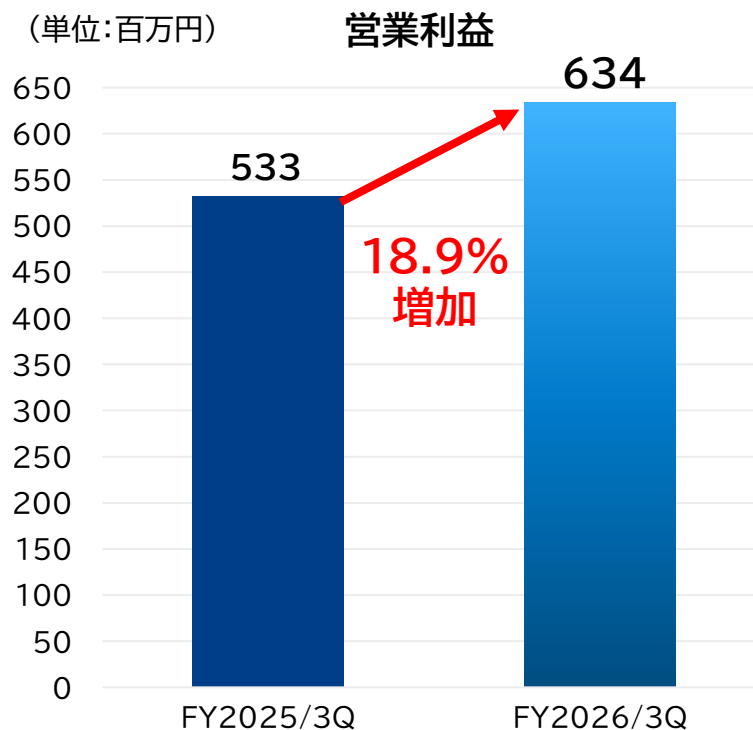
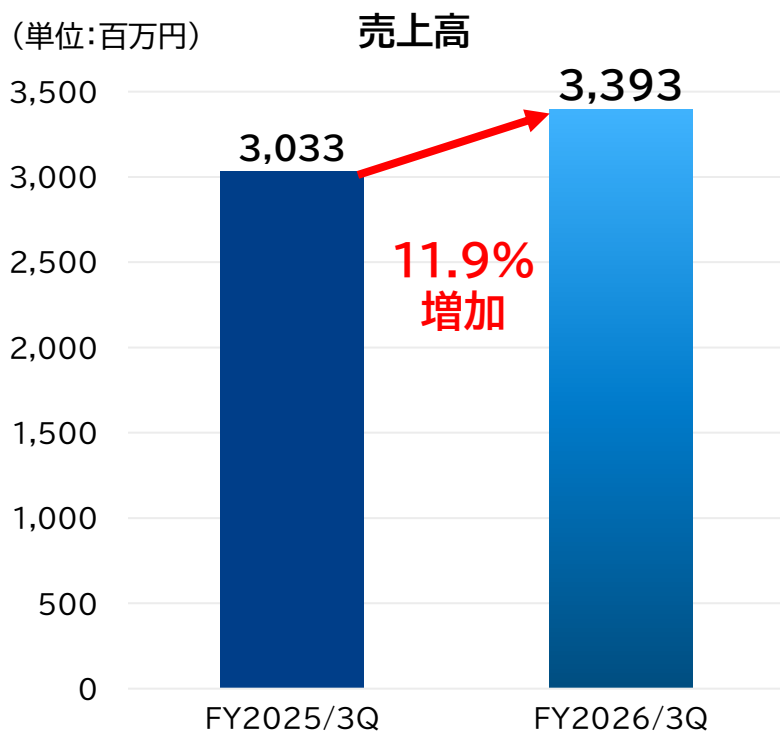
決算概要

2026年9月期 第3四半期

第3四半期の過去最高の業績を達成

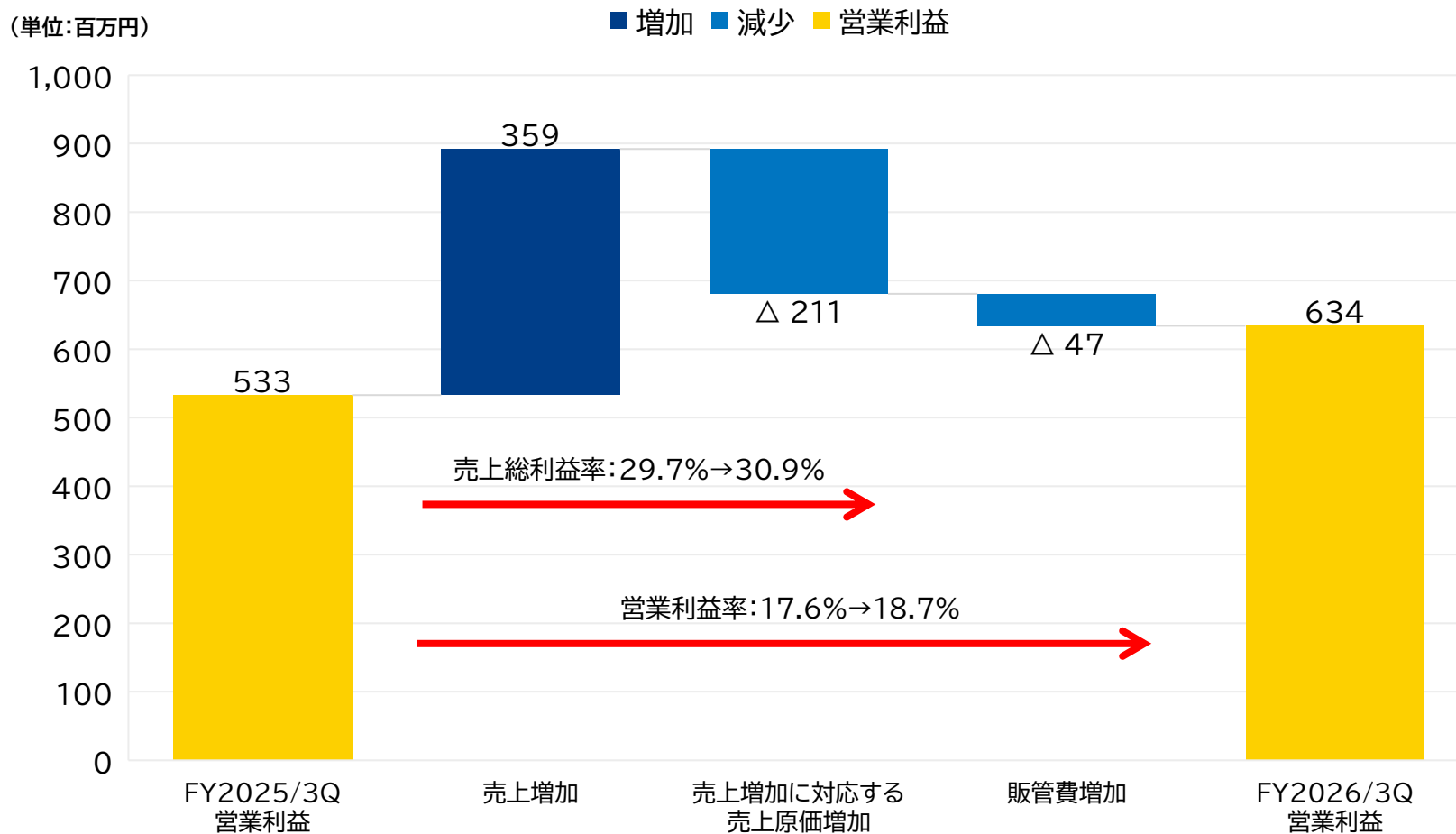
(過去同四半期比)

売上高	: 33億 93百万円	(11.9%増↑	増加額: 359百万円)	(前年同期比)
営業利益	: 6億 34百万円	(18.9%増↑	増加額: 100百万円)	(同)
経常利益	: 6億 37百万円	(19.2%増↑	増加額: 102百万円)	(同)
四半期純利益	: 4億 18百万円	(18.9%増↑	増加額: 66百万円)	(同)



営業利益の状況(FY2026/3Q)

売上総利益率の良化が進み、
100百万円の**営業利益増** (前年同期比)



カテゴリー別売上高(FY2026/3Q)

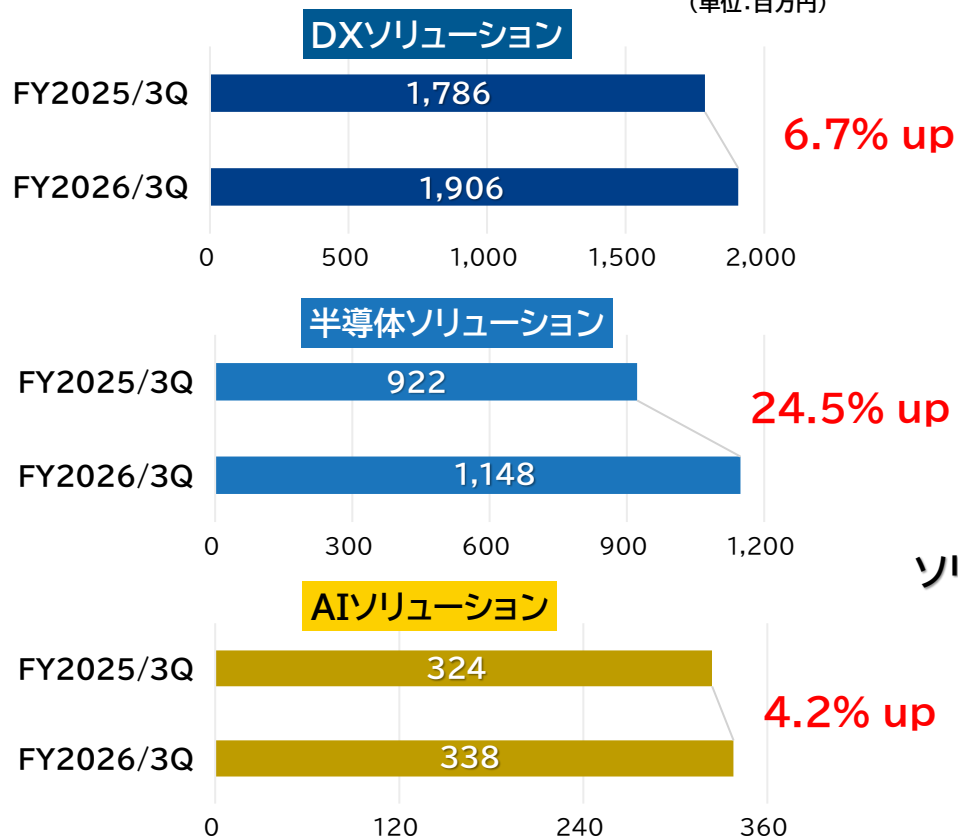
半導体ソリューションは**24.5%増**と高成長を継続
(前年同四半期比)

DXソリューションは**6.7%増**と順調に拡大
(前年同四半期比)

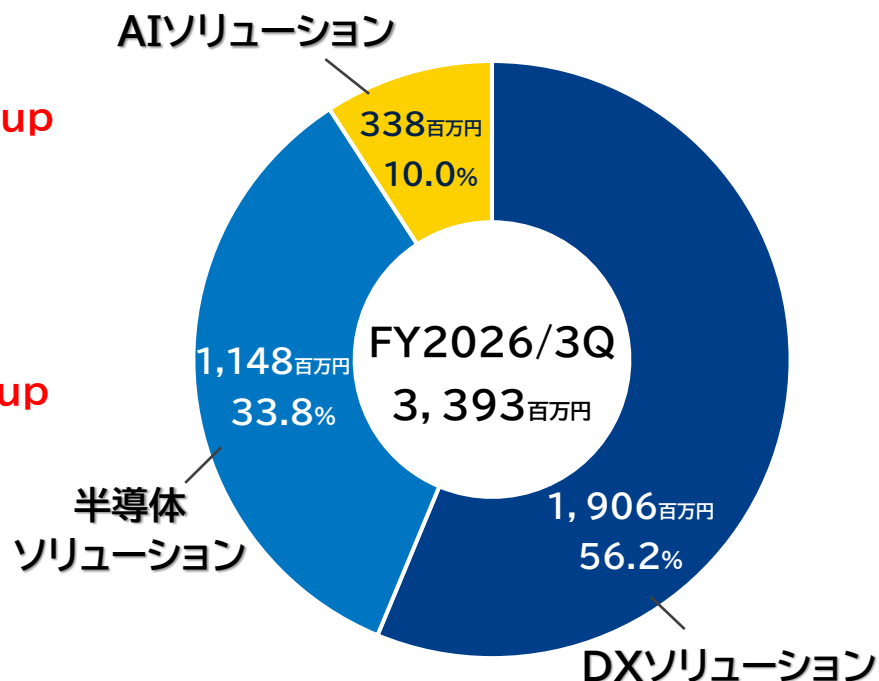
AIソリューションはR&D先行も**4.2%増**と増収復帰
(前年同四半期比)

売上高(カテゴリー別) ※1

(単位:百万円)

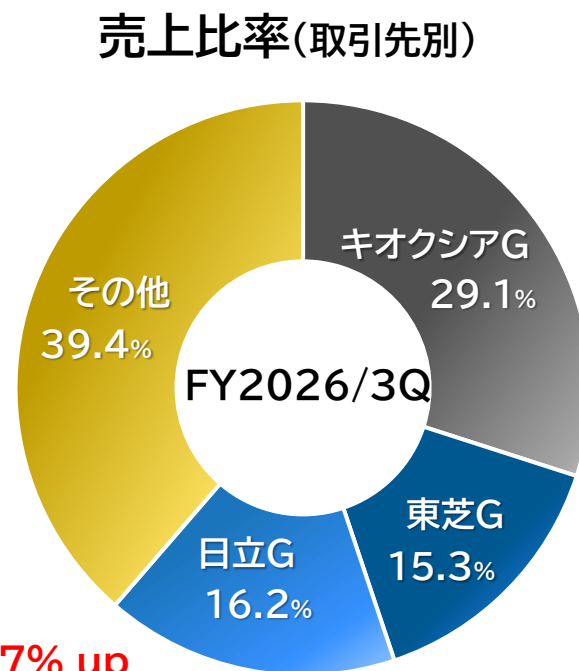
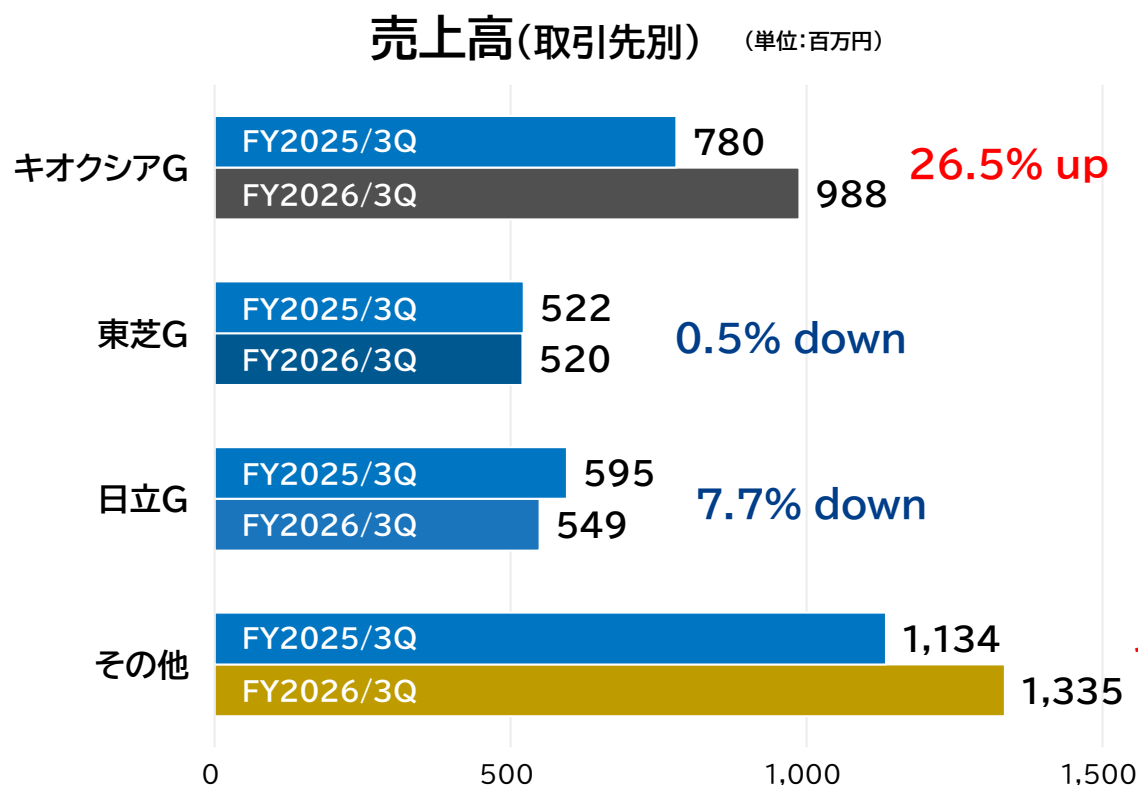


売上比率(カテゴリー別) ※1



※1 当社グループの事業セグメントは単一セグメントです。
売上高のみカテゴリー別に集計しております。

開発案件増で**キオクシアG**が大幅伸長
日立Gからリソースシフト
既存増+新規で**その他**も順調に拡大



四半期別売上高・営業利益(FY2026/3Q)

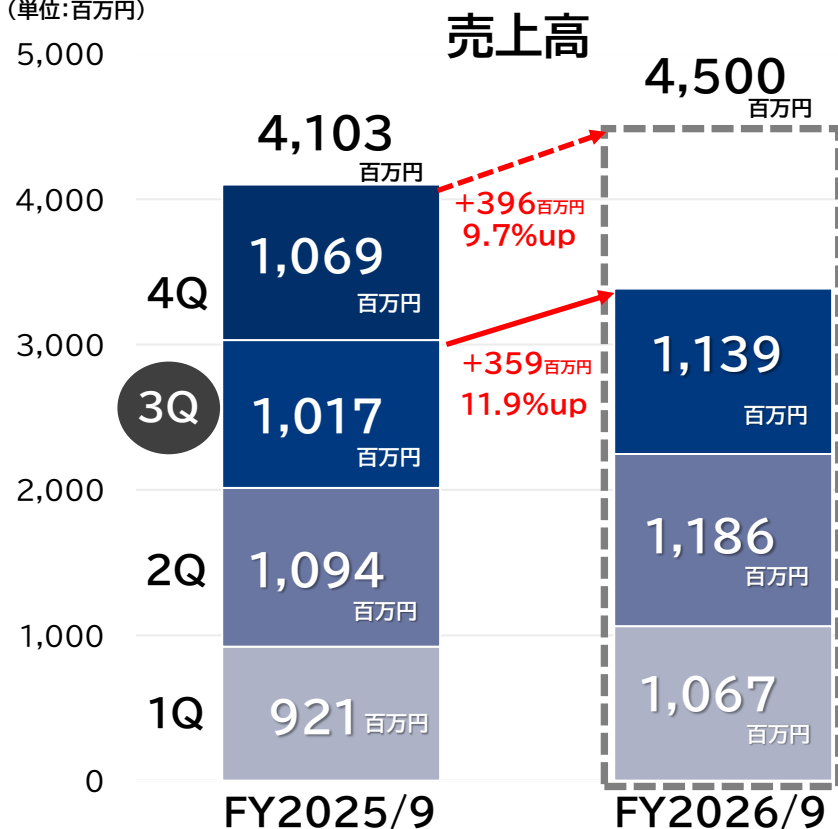
3Q累計売上高 : 33億93百万円

増加額: **+359百万円 11.9%増加** (前年同四半期比)

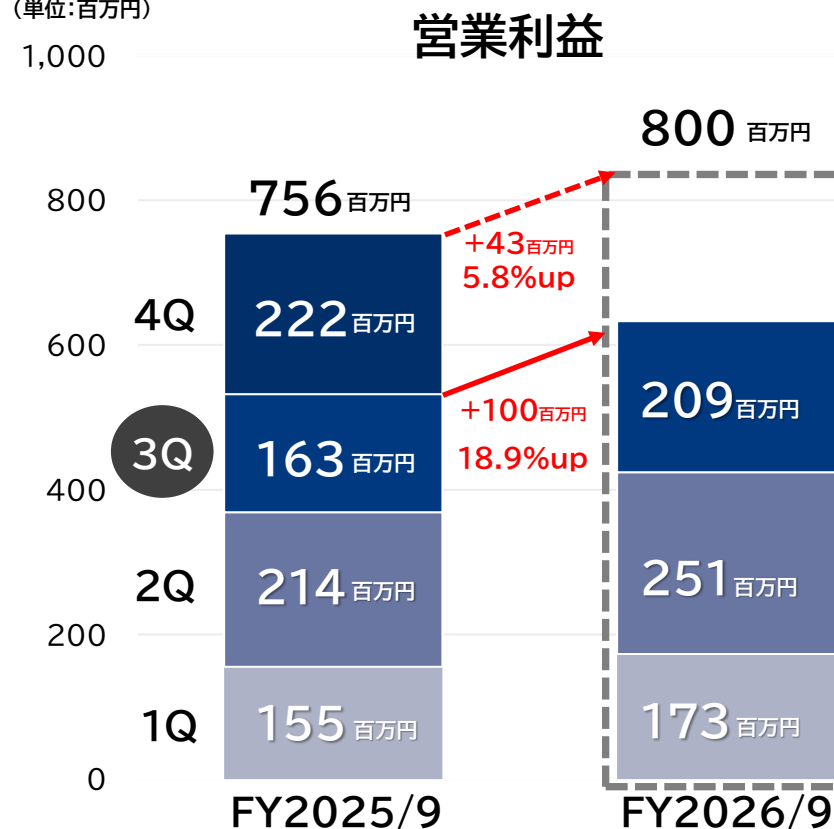
3Q累計営業利益 : 6億34百万円

増加額: **+100百万円 18.9%増加** (前年同四半期比)

(単位:百万円)



(単位:百万円)



1Q、2Qに引き続き、四半期会計期間（3か月）の売上高・営業利益は前年同期を上回りました。

半導体業界を中心に成長続く

AIに関する需要の高まりや大きな技術潮流を背景に、半導体業界は、設備投資の増加、政策支援の強化、産業再編など新たな成長段階へと入りつつあります。また、DX、AIなどの情報化(IT化)関連のデジタル投資や省力化・合理化等のためのソフトウェア投資への意欲も底堅く、増加基調が続いています。このように、当社グループを取り巻く事業環境は安定して推移する見込みです。一方で、雇用情勢は良好なものの物価上昇が景気を押し下げる要因になっており、海外における紛争継続、米国の通商政策による影響、地政学的リスクなどにも十分注意が必要です。

キオクシアG

ここ数か月の国内半導体市況は、生成AI向けデータセンター投資の拡大を背景に、堅調に推移しています。特にキオクシアが主力とするNANDフラッシュメモリーは、AIサーバー向けSSD需要の急増により需給が逼迫し、価格上昇が続いています。キオクシアは業績改善の恩恵を大きく受けており、当社グループへの引き合いの増加が期待されます。

東芝G

非上場化後の構造改革効果が顕在化し、AI関連需要を背景とした送配電設備やデータセンター向けHDD事業の伸長等により、前期は過去最高水準の利益を計上しました。AI・エネルギー・社会インフラ需要が追い風となるなど、当社グループへの引き合いも堅調に推移すると期待されます。

日立G

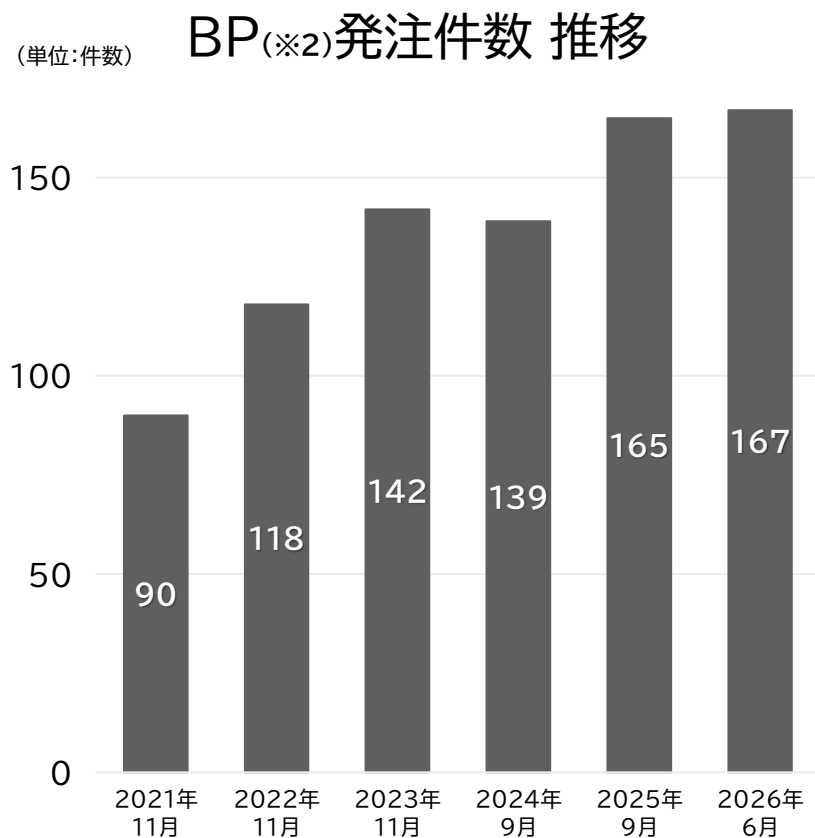
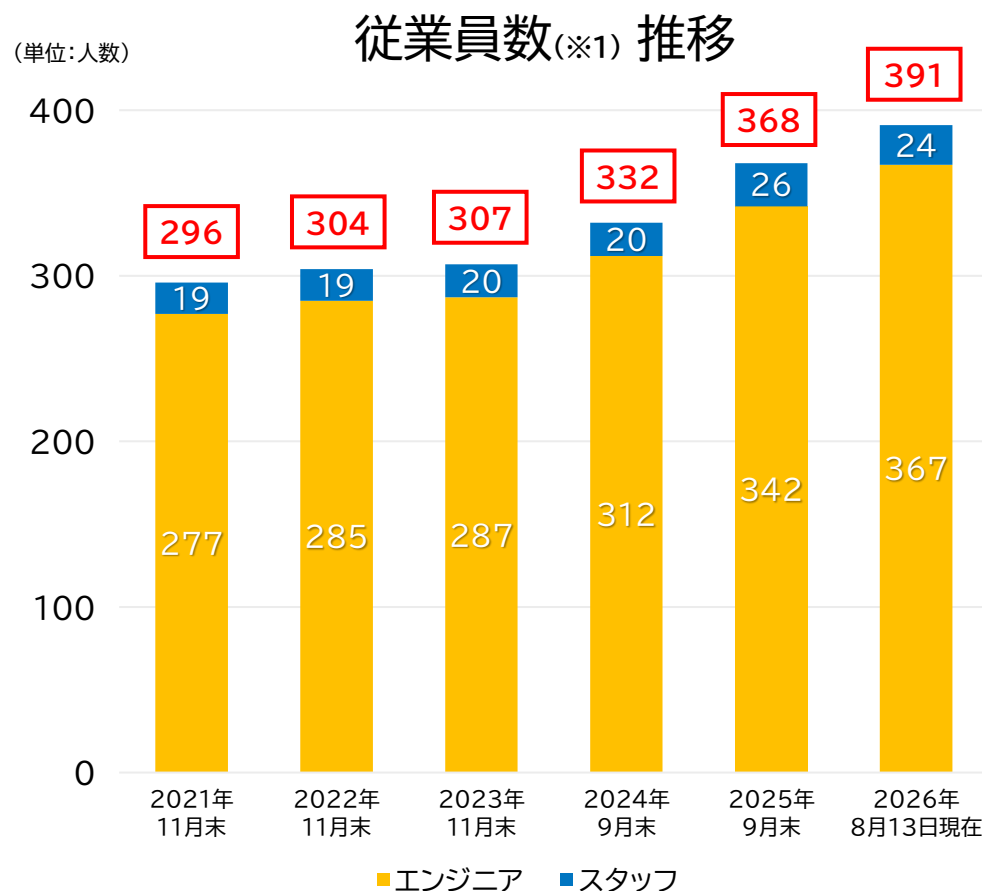
AI需要やデジタル化投資を追い風に、デジタルソリューション事業「Lumada」、エネルギー、モビリティ、産業分野の全セクターで、四半期ベース過去最高の業績を更新しました。AI向けデータセンター増設に伴う電力インフラ需要や、企業のDX・モダナイゼーション需要が成長を支えており、当社グループへの引き合いも堅調に推移すると期待されます。

その他

AI投資の拡大、DX需要を背景に当社グループを取り巻く事業環境は今後も順調に推移する見通しです。引き続き主要取引先3グループ以外の顧客との取引拡大と業績への貢献が期待されます。

2031年目標(700名)達成に向けた取組みを推進中

前期末比エンジニア25名増(7.3%増)。



※1 ティアンドエスグループ全体

※2 BP…ビジネスパートナー 業務委託等の形態で当社グループの業務に従事するエンジニア

連結損益計算書(FY2026/3Q)

連結損益計算書(FY2026/3Q)

単位:千円	FY2025/3Q	FY2026/3Q	増減額	増減率
売上高	3,033,776	 3,393,604	359,828	11.9%
売上原価	2,132,929	2,344,239	211,309	9.9%
売上総利益	900,846	 1,049,365	148,518	16.5%
販売費及び一般管理費	367,306	414,966	47,659	13.0%
営業利益	533,539	 634,398	100,859	18.9%
(営業利益率)	(17.6%)	(18.7%)		
経常利益	534,286	 637,081	102,794	19.2%
(経常利益率)	(17.6%)	(18.8%)		
親会社株主帰属四半期純利益	351,939	 418,414	66,474	18.9%
(親会社株主帰属四半期純利益率)	(11.6%)	(12.3%)		

連結貸借対照表(FY2026/3Q)

単位:千円	FY2025/9	FY2026/3Q	増減
流動資産	3,369,815	3,456,649	86,834
固定資産	293,142	1,716,496	1,423,353
資産合計	3,662,958	5,173,145	1,510,187
流動負債	683,592	549,624	△133,968
固定負債	66,305	552,303	485,997
負債合計	749,898	1,101,927	352,029
純資産合計	2,913,059	4,071,218	1,158,158
負債純資産合計	3,662,958	5,173,145	1,510,187

業績予想進捗率

2026年9月期 3Q現在

(テーマ) 成長への旅立ち

単位:百万円	2025年9月期 通期(実績)	2026年9月期 通期(予想)	2026年9月期 第3四半期(実績)	進捗率(%)
売上高	4,103	4,500	3,393	75.4%
営業利益	756	800	634	79.3%
EBITDA	770	816	650	79.6%
経常利益	753	801	637	79.5%
当期純利益	509	539	418	77.6%

T&Sグループ 全体

当社グループを取り巻く環境は好調に推移しており、グループ全体の業績も計画以上に順調な経過となっています。長期ビジョン達成へ向けた各種施策やプロジェクトを開始しており、管理体制強化と業績への貢献を計画的に推進してまいります。

T&S システム開発 事業本部

半導体メーカーをはじめとする主要取引先からの継続案件は引き続き好調を維持し、第3四半期の業績は堅調に推移しました。第4四半期の業績も堅調に推移する見込みで、主要取引先の基幹システム刷新プロジェクトがスタートしたことから、今期だけでなく、来期の業績にも寄与する見込みです。

T&S ITサービス 事業本部

新規取引先の開拓を推進しており、第3四半期は新規に2社との取引を開始しました。地方拠点を含む中途採用が進んでおり、第4四半期以降もリーダー、サブリーダー層の入社が予定され、全社体制の強化と新規取引先へのアサイン、ならびにAI活用による業務推進を継続し、通期計画の必達プラス非連続な成長を加速させてまいります。

イントフォー

第3四半期は、顧客事業環境の先行き不透明感はあるながらも、製造業向けAIエージェントやAIモデルの堅調な引き合いを背景に、計画に沿った受注拡大を推進しました。引き続き上半期の体制強化を生かして、既存案件だけでなく新規引き合いにも積極的に対応してまいります。

TSシステム ソリューションズ

第3四半期は、既存顧客の取引拡大および新規案件の受注が継続し、業績は堅調に推移しました。戦略的ローテーションによる事業基盤強化と高付加価値案件へのシフトも進展しており、期末に向けても拡大需要を取り込み、さらなる成長を目指してまいります。

エクステージ

第3四半期も引き続き好調を維持しており、予算対比にて増収増益となりました。昨期に取引を開始した某プライム上場企業からの受注が大幅に拡大しております。中途採用者も着実に成果を発揮しており、既存社員も刺激を受け、資格取得者が増えるといった相乗効果が出ております。今後も人材採用を積極的に推進し人材強化に努めてまいります。

株主還元

累進配当(※)方針に従い安定配当を継続します

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、当該企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した**累進配当(※)を継続して実施**していくことを基本方針としております。

(※) 累進配当とは、原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策をいいます。
当社では可能な限り每期増配することを目指します。

2026年9月期につきましては、上記方針に従い、1株当たり11円(1円00銭増配)を予想しております。

配当に関連する財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向(連結)	株主資本配当率 (DOE)
2025年9月期	10円00銭	14.9%	2.8%
2026年9月期 (予想)	11円00銭	15.2%	2.7%

お問い合わせ先

ティアンドエスグループ株式会社

経営企画IR部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。